

第 1 回若狭地区高校教育懇談会 議事録

- 日 時 平成 21 年 10 月 13 日 (火) 14:00～15:45
 □会 場 小浜市文化会館 4 階 大会議室
 □出席者 出 席 者：小浜市松崎市長、小浜商工会議所上野会頭、若狭農業協同組合宮田専務理事、小浜市漁業協同組合松見副組合長、学校法人青池学園青池理事長、県連合婦人会宮脇副会長、瀬尾元県教育委員、若狭高校同窓会吉村会長、若狭東高校同窓会村上会長、小浜水産高校同窓会山口会長、若狭高校 P T A 山田会長、若狭東高校 P T A 今井会長、小浜水産高校 P T A 井上会長、上中中学校内藤校長、小浜市森下教育長、美浜町大同教育長、高浜町永登教育長、おおい町柿本教育長、若狭町河合教育長、若狭高校中島校長、若狭東高校藪本校長、小浜水産高校山森校長、県栽培漁業センター村本所長 (23 名)
 オブザーバー：福井県教育委員会 津田委員
 □事務局 広部教育長、松田企画幹 (学校教育)、東村教育政策課長、小和田高校教育課長

○開 会

- 教育政策課長 それではただ今から、「若狭地区高校教育懇談会」を開催いたします。皆様方には、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
 開会に当たりまして、広部教育長が御挨拶を申し上げます。

○教育長あいさつ

- 広部教育長 本日、若狭地区の高校教育懇談会を開催いたしましたところ、御多忙のところ御出席いただきまして、厚くお礼を申し上げます。

現在、県下全域にわたりまして高等学校の再編ということで、私どもは取り組んでおります。何故この時期に再編しなければならないかということですが、福井県下の高等学校へ入る生徒が平成元年をピークといたしまして減り続けておりまして、昨年生まれた子どもたちが高校へ入るのは平成 35 年になりますと、生徒数がピーク時のほぼ半数くらいに落ち込んでしまうといったことがございます。若狭地区におきましても、平成 27 年を境にしまして、減少が激しくなっております。

これは本県だけに限ったことではございません。全国的に少子化の影響があるわけですが、全国の各都道府県を見ますと、再編整備に手をつけてないのが、福井県と滋賀県の、2 県のみになってまいりました。本県につきましては、今は進行形になっており、滋賀県の方も検討に入ったと聞いております。

平成 19 年 12 月に、高等学校教育問題協議会、いわゆる高問協を立ち上げまして、約 10 か月にわたり、福井県の高等学校の在り方をいろいろ議論していただきました。その結果、答申をいただいたわけですが、答申に従いまして、今年の 3 月末に、整備計画を策定いたしました。県下の各地区で生徒数の落ち込みの激しいのが奥越地区でございましたので、いち早く再編整備を始めるということで、実施計画を立ち上げ、現在具体的な動きを進めております。まずは奥越からということで、着々とその準備を進めております。

それから、奥越に続く第 2 次ということで、坂井地区と嶺南、特に若狭地区が該当するわけですが、若狭地区の高等学校の在り方について、今後どういう具合にしていったらいいかということですが、これは私ども教育委員会だけでは成し遂げることはできません。そこで、まずは地元の各界各層の皆さんから、

御意見を是非ともお伺いしたいということでございます。

スケジュールといたしましては、今年度末、来年の3月一杯くらいまでに、この若狭地区をどうすべきかという案を作りたいと思います。それに従って今後進めていきたいということでございます。

申し上げるまでもなく、高等学校というのは、その地域、その地区のひとつの文化でございまして、それをどうしようかということは非常に大切な問題でございます。教育委員会におきましては、本懇談会の御意見をお伺いしながら、実施計画を作っていくと考えております。

職業系高等学校にとどまらず、普通科高校についても、反省すべきところがあれば、さらにそれをよいものに仕上げていくといった視点も持っておりますので、どうぞ忌憚のない御意見をお願いしたいと思います。本日は、どうかよろしくお願い申し上げます。

○出席者紹介

教育政策課長

それでは、御出席の皆様を御紹介いたします。窓側の席の方から順に御紹介いたします。

上中中学校校長の内藤様です。

小浜水産高校PTA会長の井上様です。

若狭東高校PTA会長の今井様です。

若狭高校PTA会長の山田様です。

小浜水産高校同窓会会長の山口様です。

若狭東高校同窓会会長の村上様です。

若狭高校同窓会会長の吉村様です。

元県教育委員で、高問協の委員でもあります瀬尾様です。

学校法人青池学園 理事長の青池様です。

若狭農業協同組合 組合長村上様の代理で、宮田専務理事様です。

松崎小浜市長です。

小浜商工会議所会頭の上野様です。

小浜市漁業協同組合 組合長吉田様の代理で、松見副組合長様です。

県連合婦人会副会長の宮脇様です。

小浜市教育長 森下様です。

美浜町教育長 大同様です。

高浜町教育長 永登様です。

おおい町教育長 柿本様です。

若狭町教育長 河合様です。

若狭高校校長 中島様です。

若狭東高校校長 藪本様です。

小浜水産高校校長 山森様です。

県栽培漁業センター 村本所長です。

また、県教育委員の津田様にオブザーバーとして出席をお願いしております。

続きまして、事務局を紹介させていただきます。

学校教育担当企画幹 松田でございます。

高校教育課長 小和田でございます。

私、教育政策課長 東村でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○現況説明

教育政策課長

それでは、議事に移らせていただきます。まず、資料の確認をさせていただきます。次第、会場配置図、出席者名簿、会議資料が4つ、その他に若狭地区の各

県立学校に関する資料がございます。

それでは協議を始めたいと思います。まず、県立高校再編整備のこれまでの経緯、若狭地区の県立高校の現状等について、事務局から御説明いたします。

高校教育課長

それでは、説明させていただきます。

資料1の1ページを御覧ください。これまでの経緯でございます。平成19年12月から高等学校教育問題協議会、いわゆる高問協が計8回開催されました。そして平成20年10月に答申が出されました。この答申には、3つの柱がございました。1つ目は「職業系専門学科の在り方」です。特定の専門分野に特化した拠点校の設置、幅広い専門分野を学べる総合産業高校の設置、ものづくり・食育など本県の特色を生かした新しい学科の設置でございます。2点目は「定時制・通信制課程の在り方」です。昼間二部制の見直し、単位制・2学期制の導入、教育相談体制などの充実でございます。3点目は、「学校規模・配置の在り方」です。1学級当たりの望ましい生徒数は36人程度、1学年当たりの望ましい学級数は4～8学級程度という形で答申がなされました。

これを受けて、「新しい県立高校の在り方検討会」が設置されました。そして、「県立高校再編整備計画案」が21年2月13日に公表されました。基本的方針の中で、第2次実施計画において、福井・坂井地区、嶺南地区の全日制高校の再編を行うということが記載されています。

21年2月20日から3月6日にかけて、計画案についてのパブリックコメントが実施され、95名の方の御応募をいただきました。これを受け、898回教育委員会におきまして、パブリックコメントの結果報告、協議等がなされました。そして、3月30日、899回教育委員会におきまして、「県立高等学校再編整備計画」が決定されております。

資料2を御覧ください。県立高等学校再編整備計画でございます。

1ページに再編整備の必要性が書かれております。まず、進学率が98.5%と非常に高くなっているという中で、生徒の興味・関心等が多様化する一方で、不本意入学等により学習意欲に乏しい生徒、不登校経験のある生徒など、様々な課題を抱える生徒が出てきたという点、そして、中学校の卒業生数が平成元年3月の13,483名をピークに年々減り続け、平成34年には7,208名になるということがございます。ちなみに嶺南地区では、平成元年が2,384名、平成34年が1,303名となる見込みです。そうした中で、生徒がより良い環境で、より充実した高校生活を送ることができる教育環境を提供するために、早急に取り組むべき課題であるというように、必要性が述べられています。

2ページを御覧ください。適正な学校規模といたしましては、1学級当たりの生徒数、普通科は36人程度、その他の学科は30～35人程度。1学年当たりの学級数は4～8、可能な限り5学級以上を確保する。そして2番目には、職業系専門学科の再編整備として、拠点校の配置、総合産業高校の設置が述べられております。

4ページを御覧ください。各職業系専門学科の在り方についてです。農業科、工業科、商業科、水産科につきまして、それぞれ述べられております。農業科につきましては、拠点校の配置または総合産業高校への再編等が書かれております。工業科、商業科、水産科につきましても、それぞれの専門学科の在り方が述べられております。

6ページを御覧ください。定時制・通信制課程の見直しが述べられております。就学体制の見直しとしましては、可能な限り時間帯を固定した昼間制への移行、夜間制から昼間制への移行、単位制の実施、2学期制の実施などが述べられております。

8ページを御覧ください。再編整備の進め方です。基本的な考え方といたしましては、今後中学校卒業生数がさらに減少することが予想されるため、原則として1学年3学級以下の小規模校がある地区から順次再編整備を行うということが述べられております。

9ページを御覧ください。第2次実施計画のところでございますけれども、最初のところに全日制高校の再編整備といたしまして、福井・坂井地区、嶺南地区の文言がございます。

それでは、資料1にお戻りください。

資料1の2ページを御覧ください。嶺南地区の中学校卒業生数の推移が記載されております。平成9年度に現在の体制ができましたので、これをひとつの基準ということで、この年度を一番左に記載しております。2番目に小浜市がありますが、平成9年3月の中学3年の卒業生数は371名、現在高校1年生でいる21年3月卒業生数は339名。平成9年との比較では32名の減、割合では8.6%減っているということです。平成35年3月のところを見ていただきますと、小浜市の中学校卒業生数は257名になる見込みです。これは平成20年度に生まれた子どもたちでございます。9年度と比べますと、114名の減、率にしますと30.7%の減でございます。右側の参考に書かせていただきましたのは、ピークであった平成元年3月と比べますと、53.1%の減になっているということです。嶺南地区の合計を見ますと、平成9年3月で1,737名だった子どもの数が、35年3月には1,295名になる。25.4%の減、ピーク時と比べますと45.7%の減というような形で子どもの数が減ってきているということです。

3ページを御覧ください。先ほど申しましたように、現体制ができましたのが平成9年ですので、この年度を一番左に持ってきています。一番上に若狭高校が書いてありますが、平成9年の普通科の定員は200名、理数科40、商業40、情報処理40で、320名の定員を持っていました。若狭3校全体では、620名、17学級の入学定員を持っていました。平成21年につきましては、若狭高校301名、若狭東高校190名、小浜水産高校90名、合計581名17学級の形になっております。ちなみに、平成35年の数を試算したところ、推計値ではございますが、入学定員428、学級数13となりまして、今年度よりも3校で4学級減るといような状況になっております。

4ページを御覧ください。各市町の中学生の進学状況でございます。若狭町で見ますと、平成21年には若狭高校に42名の子どもが入学し、小浜水産高校には9、若狭東高校には39、計90名入学しております。二州地区については、敦賀高校、敦賀工業高校、美方高校に83名、私立に7名、嶺北地区に県立で2名、私立で3名、県外に5名が入学しております。

5ページを御覧ください。若狭高校、若狭東高校、小浜水産高校、それぞれの進路状況等でございます。若狭高校で説明申し上げます。区分に「普通」と書いてございますのは、普通科という意味でございます。平成19年から3年間の数字を出しています。平成21年を御覧ください。274とあるのは、20年9月の段階での普通科の志望者数でございます。定員数193とあるのは、21年3月の入試の定員数でございます。入学者数193とあるのは、21年4月の入学者数でございます。卒業生数227とあるのは、今年3月の卒業生数でございます。その次の進路区分には、進学・就職・その他がございます。これは、卒業生数227名のうち、進学者が215名、就職者が9、その他が3となっているわけです。進学区分につきましては、大学・短大・専修学校等に分け、県内・県外別に数字を入れております。その次の就職区分を見ていただきますと、就職者のうち県内は3、県外が6、業種別にいきますと、農林漁業が0、建設が0、製造

が2となっております。最後は職種別の人数です。普通科、理数科、商業科につきまして、学科別に進路状況等を書かせていただいております。

6ページを御覧ください。若狭東高校です。普通科の平成21年を見ていただきますと、20年9月で進路希望者が34名、入学定員は60名、入学者は61名、21年3月の卒業生数は54名、そのうち進学が39、就職が14、その他が1となっております。進学につきましては大学・短大・専修、就職につきましては県内・県外と業種別に記載しております。

7ページを御覧ください。小浜水産高校でございます。海洋科学科を見ますと、進路志望調査は小学科別では行っていないため、合計欄を御覧ください。平成21年は47名でございました。ちなみに今年は48名でございます。21年の海洋科学科の入学定員は30名でございました。入学者は30、卒業生は18名であり、内訳は、進学が4、就職が14でございます。進学の4名につきましては、大学が1、短大が1、専修学校等が2でございます。就職の14名につきましては、県内が10、県外が4でございます。14名の就職の業種別でございますが、一番多いところが建設の7、次に製造の2、運輸、卸・小売、サービス、そして公務員という数になっています。職種別は表のとおりでございます。

8ページを御覧ください。県内の事業所・従業者数調でございます。小浜市の中で一番多いのが、従業員数3,209名の卸売・小売業です。そして製造業が2,728名、サービス業が2,038名ということで、各業種の従業員数が書かれています。

資料3を御覧ください。全国の水産高校の設置状況についての資料でございます。学校数としましては、36都道府県47校でございます。下の方に地図がございますけれども、地図の色付きの都道府県に水産高校等が設置されています。

2ページを御覧ください。全国の水産に関する学科の状況を見ますと、水産食品関係が、過去4年間で生徒数2,363が1,800まで減少しております。情報通信関係が867から593まで減少しております。栽培漁業は増加しております。17年度の生徒数は885名でしたが、995名まで増加しております。全体的に見ますと、生徒数は、4年間で10,828名から9,405名となっております。

3ページからは、全国の水産系学科を置く高校の一覧表でございます。都道府県、学校、学科、募集定員、そして実習船の状況です。実習船については、大きさと造られた年度が書かれております。備考欄には、学校の統廃合の様子を書かせていただきました。以上でございます。

○22年3月中学校卒業予定者の進路志望調査結果説明

教育政策課長

続きまして、平成22年3月中学校卒業予定者の進路志望調査につきまして御説明いたします。資料4を御覧ください。10月9日に発表いたしまして、新聞で御覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、簡単に御説明申し上げます。

まず、表紙の裏の総括表を御覧ください。21年の卒業予定者総数は8,522人となっております。これから子どもの減少傾向が続きますが、来年は昨年に比べまして215人の増ということで、今年に限り増加が見られます。嶺南に限って言えば1,630人で、昨年に比べて117人の増と、近年にない大幅な増加となっております。

1ページを御覧ください。進路志望率につきましては98.6%で、昨年と同様、高い数値になっております。

6ページを御覧ください。学校別の進路志望状況の数値でございます。

若狭高校の普通科・商業科・理数科があります。まず普通科の9月1日時点での志望者数は、男性が142人、女性が146人で合計288人です。21年度

の定員は193人でした。ちなみに昨年度の同じ時点での志望者数は274人です。商業科の志望者数は83人、今年度の定員が70人、昨年同時点での志望者数は87人です。理数科は志望者数46人、定員38人で、昨年度時点の志望者数は23人です。

若狭東高校普通科の志望者数が44人、定員が60人です。昨年時点の志望者数は34人になります。若狭東高校農業科68人、定員が70人で、昨年度の志望者数が86人でした。若狭東高校工業科45人、定員が60人で、昨年度の酌某者数が40人です。

小浜水産高校は、48人の志望で定員が90人、昨年度の志望者数が47人です。以上が志望状況調査の結果でございます。

○若狭地区の県立高校の現状と課題

教育政策課長

続きまして、この懇談会には、若狭地区の県立高校の校長先生に御出席いただいておりますので、それぞれの高等学校の現状と課題につきまして説明をいただきたいと思っております。

中島校長

若狭高校は、今年普通科が5クラスになりました。基本的には、1学年全体9クラスで来ておりました。理数科が1クラス、普通科が6クラスで、商業1、情報処理1という形で、20年近くやってきておりました。20年前の生徒数は1,209人ほどでした。平成9年は干支の関係で減っておりますが、10年前で生徒数1,070人くらいの学校でした。それが、今年は935人となりました。クラス数はそう減ってきておりませんが、生徒数はかなり減ってきている状況でございます。若狭東高校、小浜水産高校が大体定員30人のところで来ていますので、生徒数の減は若狭高校で、というような形が続いております。

卒業生の約9割が進学をしております、1割、30人くらいが就職しているという状況であります。4学科とも、大体週7時間、34単位の学習をしております。

部活動に関しましては、運動部が15あります。この中に男女の部が9つありますので、実質24、15と9で24の部活動があります。そこに正顧問と副顧問がついておりますから、48人の教員が運動部に何らかの形で属しております。文化部は16あります。これも正顧問、副顧問がおり、大体80人くらいの教員で部活動を支えています。

進路状況ですが、100人を少し超えるくらいが、国公立大学へ行っております。大体3割強くらいになります。私学には約4割が行っております。それと短大・専門学校が1割ずつくらいになります。

課題といたしますと、生徒数が最近特に減ってきており、体育振興費等を含め、生徒会費、PTA会費等が3割減くらいになってはいますが、部活動数は変わっておりません。そうした課題が出てきております。またもう1点は、他学区へ出て行く生徒さんがいる。どうも、若狭地区から部活動のために他地区へ行っている生徒がいるようです。部活動は、顧問の個人の名前で行く場合が多いと聞いております。以上です。

藪本校長

続きまして、若狭東高校の説明をさせていただきます。

現在、若狭東高校は、普通科、農業科の産業技術科と生活科学科、工業科の電子機械科・電気科の計5つの学科、6クラスの編成になっております。今年、本校は90周年を迎えることになりました。大正9年に郡立として創立されてから90年の歴史を持っており、地域の人々の中等実業教育への強い要求から生まれた学校です。そして、地域の人々の願い、あるいは社会の要請に基づいてその姿

を変えてきた学校でして、昭和62年に大変身を遂げまして、普通科、農業、工業を持つ学校になったということです。

本校の特色は、地元で就職をする生徒が一番多い学校ということです。資料を見ていただきますと、昨年度の就職者数が93人ということで、この数は若狭高校・小浜水産の就職者数を足したものよりも多くなっています。このことから、地元に残り、地元の産業、経済、文化を支えている人材を一番多く輩出している学校ということができます。

就職者の率は55%、進学は45%となっています。国公立4年制大学には計4名ということで、福井大学と県立大学に進学しています。それから私立4年制大学には、学校全体で23名進学しています。中央大学、東京農大、あるいは京都産業大をはじめとして23の学校に行っております。その他、短大15名、専修学校等へ28名行っているという状況であります。本校は、「個を伸ばす教育の実践」ということを掲げております。1学年が6クラスという規模というのは、例えば普通科の先生方なら、3年間でほとんどの生徒と何らかの形で接触が持てるというメリットのある規模だと考えていただければよいと思います。教員と生徒の距離が近く、きめ細かな指導が行われてきました。進学指導等においても、そういうきめ細かな、マンツーマン的な教育が行われておりまして、つい先日、山口大学教育学部のAO入試に1人合格しましたが、これも子どもの願いを受け止めて、先生方がタッグを組んで指導した結果であるといえます。

若狭東高校では、基礎学力をいかに身に付けさせるかということが大きな課題になります。また、専門学科では、近年、国家資格の取得に力を入れております。

子どもたちを見ていますと、3年間で随分成長するということを感じることが多いわけですが、部活動の比重が非常に大きな学校だと思っております。部活動に一所懸命取り組むことで、生徒たちは随分成長できると実感しております。今年、放送部が、全国総合文化祭の映像部門、携帯動画部門で最優秀をとりました。4人の放送部員達が全国の高校生のトップに立ったわけですが、子どもたちが高校へ来て、好きなこと、あるいは活躍できることに取り組める、そういう余地がある学校だと思っております。

生徒たちの特徴としまして、自己肯定感が非常に低い、すなわち何事にも自信が持てないという生徒が多く入ってきます。子どもたちの自己肯定感をどのように育てていくのかということが課題の学校だと思っております。今年、コミュニケーション能力をいかに高めていくかということで、授業、特別活動、あるいは部活動、ボランティア活動で、そういうものを高めたいと願って、みんなで取り組んでおります。以上です。

山森校長

小浜水産高校です。よろしく願いいたします。

本校は、明治28年に創立、今年114年目を迎える、日本で最初にできた水産高校です。水産海洋教育を通して社会に貢献できる人材育成を目標としております。生徒数は全校で約220名、小さくとも輝く学校を目指すということで、特色を生かした水産海洋教育、部活動を展開しております。

海・船・魚に加えて、食・資源・環境といったテーマについて取り組んでおります。各学科とも、実習・資格取得を重視しております。海洋科学科マリンテクノコースは漁業あるいは船舶の運行、マリンバイオコースは栽培漁業、食品工業科は食品の加工、水産経済科は水産物の流通販売、そういったものを学んでおります。なお、2年間の専攻科もございまして、3級海技士の資格取得を目標としております。

生徒数は、各学科30名の3学科、学年90名の定員で、現在全校220名、うち女子生徒が98名、約45%を占めております。専攻科は4名でございます。

学習につきましては、基礎・基本の定着や丁寧な指導ということで、生徒の実態に合わせた取組みをしております。

特色を3点申し上げます。1点目は、3週間に及ぶ校外の現場実習、各科とも3日から5日くらいのインターンシップなどを行っています。2点目は大型実習船雲龍丸を使った実習、あるいは小型実習船あおばを使った実習、そういった航海実習も本校の特色となっております。3点目は、地域産業担い手育成事業、これは文部科学省・水産庁の合同事業ですけれども、昨年から3年間にわたって取り組んでおります。

進路につきましては、例年、進学が3～4割、就職が6～7割であり、進学先は主に専門学校、就職は地元志向が強いという形です。

特別活動につきましては、ボート部が全国トップレベルにあり、先の国体でも女子が優勝しております。ウエイトリフティングでもオリンピック選手を輩出しております。特にダイビングクラブにつきましては、アマモの活動で、地域の方々や小中学生と協力して活動しております。それから、課題研究の授業の中で、エチゼンクラゲの粉末を活用したクッキーや羽二重餅、今年は宇宙食の中の塩キャラメルに取り組んでいる生徒がおります。

課題については、やはり基礎的な学力や学習習慣、基本的な生活習慣が身に付いていない生徒、あるいは不登校の生徒がかなり入学しております。それに対応した指導を充実させることにより、地域から信頼される学校になれるのではないかと取り組んでいるところです。特に、実習というのが水産高校の特徴でございます。座学よりも実習の中で、いろんな取組みをさせて、生徒に自信を付けさせています。

また、水産高校の特色を生かして、学校の魅力を高める必要があります。実習船を広く県民の方に理解していただくこと、学校のPR、生徒募集の充実、そういったところが課題ではないかと思えます。地域産業担い手育成事業につきましては、地域、産業界、大学、関係機関との連携を深めるということで取り組んでおり、これが大きな成果を挙げつつあると感じております。以上です。

○意見交換

教育政策課長

それでは、御出席の皆様から御意見をお願いしたいと思います。どうぞ御自由に御発言いただきたいと思えます。

広部教育長

ただいま説明をさせていただきましたが、今回の再編整備は職業系高校だけでなく普通科高校、若狭地区で言いますと若狭高校のさらなるレベルアップと申しますか、特に学区制がなくなりましてから、敦賀地区においても嶺北の方へ通う生徒が増えてきております。小浜地区についてもわずか数名ですが、そういった傾向が徐々に出ているということもありまして、普通高校のレベルアップも視点にしております。時間が限られておりますが、お一人ずつ御意見をいただけますでしょうか。

松崎市長

一言述べさせていただきます。今いろいろなお話を聞かせていただきまして、将来、生徒数が減ってきて、高校の適正な規模の中での教育ということが大きな課題になってくるということ認識はしております。

今、若狭地区には高等学校が3校あるわけですが、それぞれ意欲を持って取り組んでおられる中で、再編というのは非常に難しいことであると思えます。私としては、こういう意見を聞く機会をできるだけ設けていただいて、それぞれの高校、OBの皆さんの意見を十分聞いていただきたいと思えます。

特に、各学校それぞれが特徴を生かしながら取り組んでいただいているという

中ですので、納得いただけるように時間をかけていただいて、あまり長くはかけられないかと思えますけれども、十分地元の意見を聞いていただく機会が与えられるとありがたいなと思っています。

再編を急いでやってしまうというのは、実は今、私も、小学校等の統合再編等も手がけておりますけれども、なかなか厳しいものがございます。地元の意見を十分尊重していただければ幸いと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

上野会頭

説明をいただきますと、方向性がだんだんと見えてくると思うのですが、この高校教育というものが、本当の意味でどうなのか。たとえば、明治以降に小浜に3つ、4つ、要するに遠敷農林、水産高校、小浜中学、あるいは女学校と、学校がかなりあったことにより、非常に多くの人材を輩出できたというのもひとつの事実で、その意味で中等教育あるいは大学というのは大変大事だと思います。

そういう中で、3つの高校が2つになるのがいいのかというのが問題ですが、私は水産畑におりますので、県内に唯一である水産高校を単独校からはずしてしまっているのかと思います。しかし、生徒の応募の数字を見ますと背筋が寒くなる思いで、それが無ければどうしようもないのかという感じもいたします。

県立大学に、15年経って水産系学部ができたところです。福井県の中での特徴のある高等学校ということであるならば、それをどのように存続させるのか。例えば、アメリカやノルウェーでは、これからの水産ということが、非常に資源的に、あるいは食糧問題としても重要で、大きくこれを伸ばしていこう、研究機関や学校等も増やしていこう、というようなことですが、そういう国策から考えれば、福井県内に日本海側での水産高校というものが、県立大学が唯一であるように、残っていることは大事だと思います。ただ、生徒の応募、募集ということを考えますと、なかなかそうはいかないのかなとも思いますので、よく勉強させていただきながら、考え方をまとめていきたいと思えます。

余談ですが、教育のことは、私は素人で分かりませんが、若狭高校のホーム制が全国で1つであった、これがなくなったことについては、私は非常に母校愛の面で、母校の教育について異論があります。それは、あの精神は残すんだと、ホーム制の「異質に対する理解と寛容」という精神を残すんだといいながら、最近の若狭高校生に聞いてみますと、全然何のことか知らない。そんなことは聞いたことがないという話ですから、全然残ってないですね。私は今いろんな事業をやっていますが、あの若狭高校のホーム制という考え方が自分を形成したと思っております。いろんなことを国際的な形で実践していく中で、異質な外国の方々と一緒にすることもできたと思っておりますし、一学年下の伊藤忠の社長さんも同じことを言っておられます。

そういった意味で、画一的な教育も大事でしょうが、福井県の中のある高校が独自の教育を持っている、規模は小さいけれども、あるいは教育の形がよその県と違うけれども特殊な考え方をもっているということもあってもよいのではと思います。そんなこともちょっと余談ですが申し上げておきたいと思えます。

松見副組合長

貴重な話を聞かせていただきまして、どう御返答してよいかと迷っておる次第でございます。私も水産畑でございますが、水産高校が存続できるかどうかというような話を何年か前から聞いている次第でございます。なんとか綺麗な海で魚を採り、また漁業を学生が習って、漁業を存続させていくということが一番大事かと思えます。

今話を聞きますと、再編という話が出ておりますが、長年かかるかと思えますが、水産高校が存続していくことを望みたいと思えます。

宮脇副会長

水産高校に関しては、小浜には魚と民宿がございまして、できたら調理師の資格を取れるような科、コースもあってもよいかと思えます。もう少し広い意味で、水産高校と東高校とをうまくミックスしたようなコースで、いろんな資格を取れるようにしていただけるとありがたいと思えます。

もう一つ、嶺南から福井の方の高校へ行かれるのは、大変悲しいことございまして、若狭高校にもっと力を付けてもらったら、嶺南の高校で頑張るんじゃないかなと思えますので、若狭高校にはもっと頑張っていただきたいと思えます。

宮田専務理事

今、初めて再編の話をお勉強させていただきまして、詳しいことについて分からないわけですが、やはり我々の若狭地域から優秀な生徒、人材を出さないといけないというのが、地域の願いかなという思いをいたしております。そういった意味で、生徒数が減るのは仕方のないことと思えますが、やはりそこはこの若狭という地域で、この小浜という地域で、質の高い学習ができるような再編をしていただきたいという思いをいたしております。

また、福井県全体を見ていただいて、水産の勉強したい方は、どんどん小浜へ来ていただくというような全県的な枠、構想があってもよいのではないかという思いをいたしました。生徒数がどうという問題ではないのかなという思いをいたしております。正直申し上げて、この地域の方々は、まず若狭高校を志願されるわけです。若狭東高校、水産高校という順番がおのずとある気がします。そういった中で、全体で専門高校をきちっと作っていただいて、この若狭地域で、優秀な人材を教育できる環境を作っていただければという思いをいたしております。

青池理事長

私は専修学校という立場でお尋ねしたいと思えます。資料2の7ページですが、専修学校等との連携の拡充というのがございまして、1点目ですが、技能連携、これは定時制または通信制で行うと書いてございまして、若狭地区で定時制を持っているのは若狭高校だけです。静岡県に焼津水産高等学校という高校がございまして、そこも大変生徒数が減少してきたということで、何年か前の校長先生が大変熱い思いを持って、何とかしないといけないということで、調理師養成科を学校に建てたらどうかという提案をして、いろいろと努力をなさったのですが、結局できなかったそうです。そこで、ダブルスクールのようには、お昼は学校に行って、夜に県内の調理師学校で国家資格を取らせて、子供たちのやる気を持たせようということで調理師学校に働きかけたのですが、なかなか協力してもらえないところが無かったそうです。ただ1校、手を挙げた学校は、焼津からバスで1時間もかかる離れたところにあったそうです。そこに通うにはバス代もかかる。けれどもそういう提案をなさって、大変難しかったらしいですけれども、その校長先生の熱い思いで、何回も県の方に掛け合われて、それが実現したということです。高校生が、お昼勉強して、クラブ活動のつもりで国家試験が取れるのだから行きなさいということを実施なさったそうでございます。それが大変うまくいったということで、こちらの水産高校の一部の先生が個人的な熱い思いで見学なさったということでございまして、個人的に学校の方への御相談もございました。そういうことを踏まえて、私どもも御協力できることがあれば協力させていただきたいという思いでお話をしていたわけですが、この技能連携を見ますと定時制と書いてあり、若狭高校しかそういう試みができないような書き方でございますが、この点についてお尋ねします。

それから、これは調理師の方でございましてけれども、今、資格取得、国家資格というのは、子どもたちにとって大きな励みになると思えます。再編整備について、工業、商業、福祉、家庭この4つの部門について、御検討なさっているとい

うことをごさいますけれども、小浜の専門学校では、国家資格である調理師が取れます。また、美浜の若狭医療専門学校、そちらにおきましては福祉の、介護福祉士は高校生ではとれませんけれども、ヘルパーの養成という点で国家資格に準ずるような資格もとれるということもごさいます。そういうことでできることをお手伝いさせていただきながら、御協力できることがあればと思います。お尋ねしました件について御回答をお願いします。

広部教育長

再編整備計画の7ページに専修学校等との連携の拡充を記載させていただきましたけれども、具体的にどれがどうというわけではごさいません。今御指摘のありましたことは、今進めております奥越地区におきましても同じような御提言や御意見がごさいました。他の地区からもおそらく出てくるものと思います。

これは抽象的な表現になっておりますが、こういったケースがこれからどんどん出てくるのではと思っています。特に福祉についても、資格取得が法律の改正で難しくなってきたとおりですし、今後、若狭地区においても、例えば調理師資格をとるような学科が出てきた場合には、専修学校との連携を考えていく必要があるんじゃないかと思っています。いろいろこれから出てくるとは思いますが、そういったことで御理解いただきたいと思っています。

青池理事長

福祉につきましても、どんどん法律が変わっておりますが、ヘルパー3級、2級というのも平成23年で終わりです、私どもも、それに続くようなセミナーとか講座も考えておりますので、いろんな面で学生たちに夢を持たせる教育のお手伝いをさせていただけるのではないかと考えておりますのでよろしく願いいたします。

瀬尾元県教育委員

私は高問協委員として、最初からいろいろと話をさせていただいております。高問協等でいろいろ議論もありましたし、今日見せてもらった資料は大体知っているのですが、資料1の若狭地区の県立高校の現状は初めて見せていただきまして、1点寂しいと思ったのは、若狭東高校の就職状況です。自分は農業をやっておりますが、農林漁業の就業が1名というのは、非常に寂しい思いをしております。農協関係には入っていないのですか。

藪本校長

農協が入っている年もあれば、入っていない年もありますが、去年の1名はJAだと思っています。

瀬尾元県教育委員

福井農林では、結構、農業関連への就職者数が高くなっているのですが、若狭東高校に農業科があつてゼロというのは非常に寂しい思いをしております。

また、小浜水産高校の卒業生ですが、入学者に対して卒業生が非常に少ないように思うのですが、これは非常に問題ではないかと思っています。先ほどから御意見が出ておりますように、小浜水産高校を存続しようというのは、私自身もそう思っております。日本海側で水産高校がだんだんなくなっている現状において、やはり福井県というのは水産と切り離せない県ですから、絶対存続しなければならないという思いがあるのですが、卒業生が入学当時の半分になるという状況は見捨てておけない。このためには、やはり再編をして、もう少し水産学科を盛り上げるというか、子どもたちが進んで、希望を持てる学科にするには、再編が必要ではないかという思いをしております。

先ほど、「若狭高校に頑張ってほしい」というお話がありましたが、この学校には理数科がありますが、お伺いしている話では、入学して卒業する頃には半分以上が文系に変わっていったということですので。それでは、理数科の意味がな

いのではないかと思います。それよりも、普通学科として特別クラス、特進という形にしたら、その方が子どもたちも後で2年になれば、また好きなところへ行けるといった選択ができるのではないかという思いをしております。理数科をもう少し考え直す時期にも来ているのではないかなという思いをしております。

中島校長

理数科に関しましては、若狭高校の場合、この地域の中で、いろいろチャレンジする生徒さんを募集しており、理系中心には限っておりません。どちらかというと、今の時代には理科や数学をきちっと勉強した文系も必要ということで、両方がこられるといったことで募集をしております。いわゆる、武生、高志の理数科とは違う位置付けでやっているつもりです。

山森校長

小浜水産高校ですけれども、多様な生徒が入ってきているのが現状です。中学校で不登校経験があるとか、学力が低い生徒などが現実には入学しております。大雑把に言うと、そうした子どもたちの3分の2以上が改善されて、また意欲を持って部活動や実習に取り組んでいるという状況です。しかし、やはり全てが改善されるわけではなく、そういう子どもたちの大半が進路変更ということで、就職をするというのが実情です。その他、不登校や学級の中でうまくいかないという子どもたちがおりますので、休学をしたり、あるいは通信制等に転学をしたりという実情がございます。

吉村会長

若狭高校の同窓会長をしております吉村と申します。高校再編問題の出発点が、児童数、生徒数の減少から出発しているような印象を受けたのですが、そうなりますと数あわせの再編といいますか統合して数あわせをしていくのが先に立ってしまうことになりはしないかという恐れを感じました。

教育ということに関しては、私はあまり知識もないのですが、そのような形で事が進められていくと、やはり、少し問題になってくるのが起こってくるのではないかと感じます。

先ほどから語りつくされていますように、冒頭、教育長がおっしゃったように、学校は文化であり、3校が地域を作ってきているという中で、今後これらがなくなっていくということになった場合に、大きなショックを受けると思いますので、そういった点の十分な子どもたちに対する配慮、子どもたちがどのような形で学んでいけるのかというところを大きな視点にさせていただいて、物事を進めて行っていただくことを要望させていただきます。

また、数が減っていくという現状を資料で見せていただきましたが、こういった中で、どこがどの部分で努力できるのかということも、もう一度、それぞれの3校で努力するところがあるのではないかと。また、それぞれの地域が人口、生徒数を増やすように努力することでも必要であろうし、いろんなところで、県がする部分と学校がする部分、また私たちがやれる部分があると思います。そういった役割分担的な議論も、もう少し意見を広く聞いていただければありがたいと感じました。

広部教育長

説明がちょっと不足しておりましたが、高問協など、いろんな議論の中で前提となっておりますのは、高校に入る生徒たちがより良い環境で、より良い高校教育を受けるにはどうしたらよいか。決して再編ありきではない、これが一貫した考え方でございまして、現在もそれは変えておりません。それが前提となっていくことだけは、御理解いただきたいと思います。

村上会長

計画はこれから策定されるということでございますので、大雑把に感じたことを申します。

人数の減があると、とらえようによっては、逆にゆとりのある教育、きめ細かい教育ができるという環境になる一面もあると思います。

小中学校の問題でも疑問に思うことがあるのですが、学級というのは必ずしも多いほうが良いとは思えないのです。もちろん適正規模というのはあると思うのですが、一概に学級がいくつ以上なければならぬ、ということもちょっとどうかと思います。しかし、現実には行財政の問題がありまして、そういう視点で捉えざるを得ないということだと私は理解しておりますけども、一方で、日本全体の教育投資は果たしてどうなのかというと、ヨーロッパなどと比べましても、教育投資額そのものが少ないのです。だから、今、教育長がおっしゃったように、教育の重視という立場をしっかりと前提にさせていただくということが大事かと思えます。

一般論で言うと、伝統や誇りというものは各学校にあり、そういうものを大事にしたいということは当然あるわけですが、私は、それよりも、この若狭地域の、嶺南と言ってもいいと思いますが、将来の人材を総合的に、客観的に考えてどうしていくのかということが基本だと思っております。その場合に、普通教育と職業教育との関連をどう捉えていくのかということが非常に大事になるのではないかと思います。現に職業系学科から進学する生徒も多いわけです。

少し飛躍するかもしれませんが、私は、高校では分化して専門化していくよりは、興味を十分に持たせることが必要だと思います。例えば、農業なら農業に関心を持ち、立派な職業なのだという気持ちを持たせること、水産教育でも、細かいことよりは、とにかく水産業に関して十分興味を持ってもらうということを中心にしたらいと思います。さらに突っ込んで勉強したいという人は、専門学校なり大学へ行ってもらえばいいと思います。職業高校の中でもあまり専門化せずに、どちらかという、職業系高校でも普通教育を大事にすべきだと思います。普通教育のカリキュラムをしっかりととりながら、それぞれの職業教育、興味を持たせていくことを基本にして計画を策定していただけたらいいかと思えます。

山口会長

小浜水産高校の同窓会の山口でございます。今日は、こういった意見交換会というものを持っていただいて本当にありがたいなと思っております。私も水産高校の卒業生としまして、多くの皆様から水産学校、水産教育におけるお考えを聞かせていただいて心強く思っておりますし、また私たちが本当に地域における水産高校の存在感というものを自信を持って皆様にお話できると思えます。

2月に県立高校の再編整備計画案が出まして、続いてパブリックコメントが行われました。各界各層からパブリックコメントが全部で95件出まして、そのうちの多くが水産高校の存続の必要性についての意見でした。全体の62%が水産高校の存続の必要性について提言をしております。このパブリックコメントの結果、県からそれを反映した回答も出ているということも承知しております。

基本的には、嶺南地域における高校3校体制は必要であると思えます。若狭高校、若狭東高校の会長さんがおっしゃったように、生徒数が少なくてもキラリと光る特徴のある教育は必要です。3校に分化され、入学の段階において序列化されてしまう、進学する者、あるいは中学校でついていけない子どもたちを救済するような格好になっていることは、ある意味で非常に大事なことだと思うのです。もし2校体制あるいはもっと別の形で集約されるようになりますと、そういった厳しい教育レベルの子どもたちはどこで救われるのかということです。学校へ上がってもその子達のモチベーションがなかなか上がらない。したがって、途中で退学しなければならないということも出てくる。

一例ですけれども、小浜水産高校で、生徒たちがエチゼンクラゲをどのように活かすかということで、クッキーを開発したわけです。皆さんお口にしていた

いていると思いますが、ヒントを出したのは、落ちこぼれという表現は悪いですが、そういった子どもたちのヒントなのです。あるいは、ミジンコを宇宙へ送ろうというヒントもその子達なのです。今度、キャラメルができますが、これらはそういった子どもたち、学問は確かに厳しいけれども、現場に適応できる子どもたちが育っているということなのです。もちろん、校長先生や教職員がそういう面で指導力を発揮してくれていますので、ありがたいことだと思っております。現在、食・環境・資源について、県立大学、栽培漁業センター、あるいは水産高校等、県のたくさんのお金を投資していらっしゃるわけです。これが、地域の産業の底支えになっているはずで、当然底支えでなければならぬはずで、各界の方は頑張ってくださいているわけです。

そこで水産高校がどういう役割を果たすかということになりますと、県立大学はいわゆるアカデミックな研究をやり、そして高校は、あるいは地域の企業は商品としてニーズのあるものをどう開発するかということです。開発は、実験場、試験場、調理場を持っている水産高校が試行錯誤しながらやる。小さな企業で小さな新商品を発売するというのは非常にお金のかかることで、人材も要ります。そういった意味で、水産高校における商品化のための試行錯誤も非常に大事な役割を果たしているものと思っております。そういう意味で、大学と高校と地域、行政も含めてですが、3者一体となった機能は十分果たせると思います。もちろんこれは、水産高校でなく、食という切り口から行けば、農業高校も当然その中に入ってしかるべきだと思います。

今の経済において、農林水産業というのは第一次産業という捉え方をされていますが、実はそうでなく、今は第6次産業まで来ているわけです。採ること、育てること、加工すること、流通すること、販売すること、そして他の業界とのコラボレーションをやること、こういった産業がどんどん広がってきている第6次産業まで来ている状態の中で、下支えをするのは農林水産業だと思います。

そういった意味で、この地域ではこの地域でしかできない教育の仕方というもの強調してこそ福井県の独自性というものがあると思います。子どもたちの減少に関しては、県外からでも、あるいは韓国や中国からでも子どもたちが交流できるような高校にしていきたい。福井県として、県のお金を使ってよその子どもを育てて、また帰られてせつかくのお金が活かされないというような狭い見はお持ちじゃないことと思いますが、そのぐらいの大きな気持ちで子どもたちを育てる、地域を育てることに是非取り組んでいきたいと思っています。

山田会長

一番大きなトピックの水産高校の再編の件で、一言だけ意見を述べさせていただきます。

私もパブリックコメントを一通り見せていただいて、それに対する対応、方針を読ませていただきました。全ての意見が水産高校の再編に対しては反対だというように見受けられたように思います。栗田知事は、水産高校を残すという風に言われていたそうですが、現在の計画で、これからこのパブリックコメントに寄せられた多くの御意見がどのように反映されていくかというのを計画の段階から見せていただきたいと思っています。

以降は、私の意見です。先ほどからの皆さんの御意見の中で、例えば若狭高校がもっと魅力的な学校になるべきじゃないか、生徒のよその地域への流出を何とか防止して、地域から優秀な生徒、それからいずれは人材を出していくべきではないかというお話がありました。先ほど教育長のお話で、結論ありきで進んでいるのではないと、数が少ないから再編ありきで話をしている訳でないと、あくまで生徒の教育環境から入っているのだとおっしゃられていました。ただ、魅力ある学校づくりが再編をすればできるのかということ、必ずしも直接そうはならない

と思います。たとえば、売上げが減少したから支店を閉じる、人をどんどん切る、それで単純に営業成績が上がるわけではないと思います。もしそういうことをすれば、経営陣は経営責任を取らなければいけないことになってくると思います。売上げが減ったなら、いかに売上げを伸ばすかという努力をするべきですし、大局的に考えるべきだと思います。

学校に関しては、生徒数がどんどん減少している現状で、私立高校が生き残りをかけて頑張っているように、県立高校も生徒数をいかに回復すべきか、学校間競争に勝ち抜くような経営計画を立てるべきだと思っております。水産高校の話ですが、水産高校は、特色ある学校の一つです。伸ばしようによっては、非常に魅力的な学校になる要素を持っていると思います。再編してしまったのでは、その要素を著しく損なうのではないかと危惧しております。むしろ、小浜市として、若狭地域としてその政策の中で水産高校をいかに残すべきか、一つの方策としては、県立大学の附属高校というような方策もあると思います。そういったようなことも含めて存続を、むしろ小浜水産高校は手を付けてはならない聖域として捉えるぐらいでもいいのではないかと思います。以上です。

今井会長

私も、県の高校再編計画の骨子、パブリックコメントにつきましてもいくつか目を通させていただきました。私が思いますのは、パブリックコメントの中に、若狭高校のホーム制をなくしてしまったことと、若狭農林高校を普通高校に変え、農林分野を狭めてしまったこと、これはこの若狭地域にとって大変な損失であったと思っております。私の周りを見渡す限りでは、やはり、現在の若狭東高校、水産高校の卒業生の方が、かなりの率でこの地域の支え、発展に大きな貢献をなされていると思っております。進学校の若狭高校を卒業して大学に進み、大変優秀な成績で卒業されても、こちらの地域にはなかなか帰ってはいただけない。都会の方で、もっと魅力的な仕事を見つけて、せっかく育った地域でありながら、そのノウハウが活かせていないという状況も省みますと、再編計画の中でも、各若狭3校の学校の先生方、校長先生はじめ、よく御意見を交わしていただきまして、特徴をきちっと残していく、各校のいいところを残して行って、若狭地域の今後の発展にも寄与できるような形をとっていただくような再編をお願いしたいと思っております。

井上会長

小浜水産高等学校PTAの井上です。何度か再編整備計画につきまして話を聞いております。その中で、奥越地区の統合に当たって、PTAとの話し合う場が持たれなかったと聞いております。先ほど松崎小浜市長もおっしゃられましたが、地域の皆さんの声を聞く場を是非とも持っていただきたいと強く思っております。

もう一点、小浜水産高等学校は、御存知のように、全国で一番古い歴史と伝統のある水産学校でございます。統合につきましては、避けて通れない道かと思っておりますが、その中で、なんとか良い方法で、水産高校というものを是非とも残していただきたいと強く考えておりますのでよろしくお願いたします。

広部教育長

ありがとうございました。各教育長さん方、中学校長さん方には、今日は時間もございませんので、別に御意見をとらせていただきますが、特に御意見ありましたらお願いいたします。

内藤校長

非常に複雑な思いで聞いております。高校の御努力も分かります。つい先日、高校説明会がありまして、みんなに良い高校はないですよと、一人ひとりに良い高校はあるかもわかりませんが、という話をしました。

中学校としては、3年間の間で、進路保障と、不本意入学をする子を減らしたいと思っております。子どもたちは、一番は多様な部活動のある学校、友人関係の保てる学校、それから将来への可能性が広く残っている学校というような考え方で進路を選んでいる傾向があります。この高校はこれだから素晴らしいというような選び方は、残念ながらしておりません。これは中学校の指導が十分でない、あるいは小学校のキャリア教育、社会体験、保護者の意識改革、全て必要でないかと思えます。

かつて高校に進学する人たちは、自分の意思を持って高校を選んで、小浜水産、若狭農林、若狭高校で一所懸命勉強されたから、各地域の立派な人材となって活躍されたのだと思えます。したがって、今を救うとすれば小中が頑張って、将来に向かって自分なりの考え、思いを持って高校へ行ってくれるような子どもたちを育てる、親御さんと一緒に頑張るしかないと思えます。

広部教育長

ありがとうございました。総括的に御意見がございましたらお願いします。

上野会頭

先ほど一つ言い忘れたのですが、この資料にありますように、どうしても水産高校が矢面に立つ状況かと思えますが、本当によく頑張っていると思えます。おそらく新聞の露出度、地域への貢献および地域との連携というのは県内の高校では最大級ではないかと思えます。山口会長が言われたように、課題を抱えた子どもたちがNASAへ缶詰を持っていくとか、いろんなことをやっている。アマモマーメイドプロジェクトは地域に広がっています。あるいは最近では、有害鳥獣の鹿を燻製にするとか、一口へしこを作るとか、本当に地域に根ざしたものを一所懸命やっている。先生方の指導も素晴らしいと思えます。

福井県立大学の三大学是に、特色ある研究、魅力ある大学、そして地域に開かれた大学というのがあると思えますが、地域に開かれた高校があってもよいのではと思えます。小中は義務制ですが、高校は義務制ではないわけで、県立高校とは言えども、全国的に非常にユニークな、今青池先生が言われたような資格が取れるとか、あるいは県立大学との連携とか、また地域のいろんな活動をしている、学問はあまり得意じゃないけれども、いろんなことで実践的な中等教育が学べるという意味での独創的なアイデア、極端に言えば、先生方も民間からの採用があってもよいというような、本当に全国的にも珍しいそういう県立高校があってもいいのではと思えます。ただ、そこに入りたいという生徒が少ないのは、本当に一番痛いところでありまして、もっと魅力があって、県内外から応募があるよう、なんとかそういうものが作ればと思えます。

広部教育長

私どもも、若狭地区の県立高校を考える場合に、やはり小浜水産高校が大きなポイントになると当初から予測しておりました。この春以降、私どものスタッフが全国各地の水産高校に視察、見学に行っております。いろんなスタイルがあるわけですが、「水産」という名前を他に変えているという例はかなり多く見られたようであります。

今日はいろんな御意見をいただきましたが、この若狭地区の県立高校の在り方をどうするかということについて、私どもここへ寄せていただいた際に、これをやるのだという案をもっているわけではございません。やはり、最初に申し上げたとおり、高等学校はその地区のひとつの文化でもございますので、その中で将来の高校生たちが、より良い環境で、より良い高校教育を受けるにはどうしたらよいか、どうあるべきか、これを今後探っていきたいと思えます。

今日は貴重な御意見いろいろ伺いました。また、私どもとしては、最初に申し上げたとおり、年度内には一応の案、若狭地区についてはこういう具合にすると

いう案を作成していきたいと考えております。今後、引き続き、各町の教育長さんとも専門的な御相談をしながら、各学校の同窓会長さん、PTA会長さん、それから民間の皆様方の御意見を承りながら、進めてまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

○ 閉 会

教育政策課長

どうもありがとうございました。今後の懇談会につきましては、また皆様方の日程をお伺いして調整をしてまいりたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。次回につきましては、魅力ある高校づくりについて、様々な御意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは懇談会はこれで閉会といたします。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

- 以 上 -